

**製品名: CdcA7 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08535**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	43kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CDCA7
別名	CDCA7; JPO1; Cell division cycle-associated protein 7; Protein JPO1
遺伝子 ID	83879.0
SwissProt ID	Q9BWT1
免疫原	抗血清はヒト CDCA7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 141-190

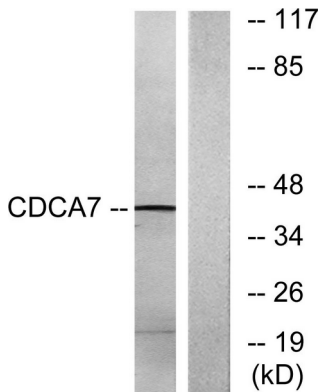
**背景**

細胞分裂周期関連遺伝子 7 (CDCA7) ホモサピエンス この遺伝子は c-Myc 応答遺伝子として同定され、c-Myc の直接的な標的遺伝子として機能します。この遺伝子の過剰発現はリンパ芽球細胞の形質転換を促進することが分かっており、形質転換に欠陥のある

Myc Box II 変異体を補完することから、c-Myc を介した細胞形質転換への関与が示唆されています。異なるアイソフォームをコードする2つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: MYC を介した細胞形質転換に関与し、リンパ芽球細胞において足場非依存性増殖およびクローン形成能を誘導します。過剰発現しても腫瘍形成能を誘導するには不十分ですが、MYC を介した腫瘍形成に寄与します。転写調節因子としての役割を果たす可能性がある。誘導: MYC およびおそらく E2F1 によって活性化される。、その他: CDCA7 の発現は、リンパ芽球様細胞株、リンパ腫細胞株、乳がん細胞株において MYC の発現と相関している。、組織特異性: 普遍的に存在し、胸腺と小腸で高いレベルを示す。多くの腫瘍、急性骨髄性白血病 (AML) 患者の血液、および慢性骨髄性白血病 (CML) の急性転化において過剰発現する。、

## 研究分野

### 画像データ



CDCA7 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。